日朝芸術文化交流協会　会報

第12号：2020年7月10日

ピビムパプコンサート　～日朝友好のつどい～

名古屋で初めての日朝友好野外コンサートが楽しくにぎやかに成功！今回、東海地方で活躍する芸術・文化分野の団体、個人が『一堂に介し、交流し』(混ぜ合い)、それぞれのコンサートを通して日本と朝鮮の友好親善の願いを広くアピールしていこうと、初の野外コンサートを、7月7日、七夕の日に、名古屋の若宮広場で行いました。みなさんよくご存知の비빔밥(ピビムパプ)。これは비빔（混ぜ）・밥(ごはん）という意味です。個性あふれる味を混ぜれば混ぜるほど美味しくなるピビムパプ（日本ではビビンバと言われます）をイメージしたネーミングです。当日は、天気に恵まれ、朝鮮高校の生徒たちの合唱や踊り、シンガーソングライター宋知香さんなど朝鮮の人たちのステージや太鼓、ひらき座、愛知教職員合唱団きぼうなど日本の人たちのステージ、「とどけ！アリランプロジェクト」という名前で、日本と朝鮮合同での歌つくりをしたステージ、さらに中国の獅子舞、ブラジルのサンバと、多彩で楽しい１７のステージが続きました。きぼうは昨年から歌い続けている「ソウルの少女」と、ソウルの水曜行動で仕入れた「岩のように」、そして今年残念ながら亡くなった団員・伊藤武和さん作詞の「鳩は飛んだ」を演奏しました。「とどけ！アリランプロジェクト」は、今年の初めから日朝合同創作会議で創ったばかりの新曲「9月1日　私たちは集う」「あなたと私のラプソディ」「同じと違いのラップソディ」の3曲を披露しました。多くの方たちが舞台を盛り上げ、その思いはまさしく「違い」を抱きしめて「同じ」を楽しむことでした。終了後の「ミニゆんたく」も大変有意義な時間でした。また結果、豊明の朝鮮中高級学校に93,103円のチャリティー金を贈呈いたしました。に日本人、在日朝鮮の方々、サンバのチームの方との語り場は、日本の過去現在を生きながら、未来への希望を感じました。庶民の文化交流は未来への希望を作ります。私たちに出来る事は、そんな「架け橋」を作り続ける事です。

とどけ！アリランプロジェクト
近藤直門・川瀬まゆみ・金順愛・藤村記一郎

投稿　私の視点　－ 高句麗壁画古墳を訪ねて －

2017 年9月訪朝した折、ご無理を言って当初日程になかった平壌郊外にある「高句麗壁画古墳群」の江西三墓(大・中・小の三つ古墳がある)を訪れることが出来た。この古墳群は、2004 年に世界遺産に登録された。登録対象は、中国吉林省集安市に所在する 22 基の壁画古墳と平壌郊外の古墳群 63 基である。集安に都があった時代を前期、427 年に平壌に遷都した以降を後期高句麗と云う。吉林省集安の古墳群には 2009 年に訪れている。平壌郊外にある古墳群は、江西三墓の他に安岳墳(1・2・3 号)や徳興里・徳花里の壁画古墳がよく知られている。江西大・中墓は後期を代表する壁画古墳であり、この古墳をもって高句麗壁画古墳の時代は幕を閉じた。江西大・中墳の四面の壁には、青龍(東)・白虎(西)・朱雀(南)・玄武(北)の四神が描かれている。天井の全面には、蓮花や雲、鳳凰そして日像・月像が描かれている。当然、この古墳内部には、専門家以外は入れないので、その華麗な画像は、「高句麗古墳壁画」の本を購入して見ることとした。奈良県明日香村にある高松塚古墳とキトラ古墳は日本を代表する壁画古墳であるが、この古墳壁画の制作者たちは、高句麗古墳壁画を描いた画工たちかその指導を受けた人たちである。高句麗壁画と同じように、素晴らしい四神や日像・月像そして天文図が描かれている。

【キトラ古墳の白虎】

【江西中墓の白虎】

【江西墓前にて】

つぶれそうな演劇記

毎年恒例となりました、つぶれそう一座朝鮮学校交流公演を今年も2月29日(土)、瀬戸市の愛知第七初級学校で行いました。2003年より始まった交流会、生徒減少により数年前から春日井市の東春初級学校と合同で行うようになりました。学校側の都合により、今回で最後に。朝鮮学校のことを知ってもらうために毎年必ず新しいメンバーを連れて行こう！と決めていて今年も韓国釜山生まれで名古屋在住の女性と一緒を連れて行きました。つぶれそう一座の演目は昨年に続いて「THEバラエティショー」。前半は生徒さんたちを巻き込んだマジック。種を探ろうと子どもたちも懸命でしたが、袋に携帯電話を入れるとあらま不思議！消えてしまいます。驚きと大きな拍手が沸きました。後半は岐阜県の民話で大型紙芝居「あほろくの川だいこ」を見てもらいました。小さな子にはちょっと難しかったかもしれませんが最後に和太鼓を叩くとまた大きな拍手を送ってくれました。つぶれそう一座の演目が終わると今度は生徒たちによる「芸術公演」。華麗な朝鮮舞踊や歌を聞かせて頂き、18年間を振り返りました。日本と朝鮮の間に様々な出来事がありましたが、交流会は一度も途切れることなく、強い絆で結ばれてきました。互いを信頼しあうまで、まだまだ道のりは遠いかもしれませんが、こういった小さな交流をコツコツと積み上げていくことがいちばんの近道かもしれません。オモニの美味しい昼食を頂いて午後はゲームをして交流を深めました。韓国釜山生まれ、初参加の金さんは「子どもたちの目の輝きが素晴らしかった。これからも応援して行きたい」と語りました。

野崎佳史

日朝新春交流懇親会が行われる

「日朝教育・文化交流をすすめる愛知の会」の主催による、日朝新春交流懇親会が去る2月4日、名駅前の「東天紅」で和やかに行われました。　懇親会には内河恵一会長をはじめ「…すすめる会」のメンバーなど50余名が参加しました。懇親会では主催者側を代表して、内河恵一会長のあいさつがあり、竹内宏一事務局長が去年一年間の活動報告と今年の運動方針を提案しました。　つづいて、フォトジャーナリストの伊藤孝司さんが「朝鮮の自力更生と日朝の課題」をテーマに、訪朝での見聞と体験を通じて収録した資料をもとに、朝鮮の真実を正しく捉える上で貴重な講演を行い好評を博しました。　また、懇親会では歌手、遠山洋子さんの歌と文芸同東海支部の呂潤雅さんの舞踊が披露され、会場は一段と熱気にあふれて、なごやかな友好ムードに包まれました。それぞれの参加者たちは、日朝間を取りまく昨年の厳しい情勢のなかでも成し得た成果をたたえ合いながら、今年の更なる前進を確認し決意を新たにしました。

金貞淑

「朝鮮高校無償化の応援を始めて」

スネさんの声掛けを受けて、月に2回、第2と第4金曜日、栄の路上で、朝鮮高校無償化の応援を始めた。54回を数える。ちょうど、チンドン屋の稽古をしていて、腕試しをしたかったこと。それに、数ある学校の中で、朝鮮高校だけが、あからさまに助成金の対象から外されているのは、気の毒な話、という、かわいそうな気がしたからだった。　今、思えば、なんとも恥ずかしい、的外れな、失礼極まりない奴だ。　私自身、今でも、ほとんど何もわかっていないのだが、「朝鮮の問題」（内、外を含めて）を知らない日本人はたくさんいる、ということは知っていた。しかし、この無償化運動にかかわるにつれ、朝鮮との関係を「良くしたい！」と強く願う日本人がたくさんいることがわかり、とても驚いた。　「知らないことがどんなに君を、傷つけていたか。今ならわかる。」ひらき座の芝居の中で歌った歌詞だ。どんなに説明をしても、最初のところでわかってもらえない口惜しさがある。とにかく、知ってもらう。こんな理不尽なことを日本はやってるんだと、知ってもらう。自分たちはわかっていないんだ、と知ってもらう。そこからやらなくちゃいけない。まだそこなのか、とも思う。　良き縁をもらったと思う。これは、私たち日本人の問題なのだ。

人業劇団ひらき座
太田　祐子

日朝芸術文化交流協会は、あなたの芸術活動を応援します！

定期的に発行される会報で、あなたの公演や発表会、展示会など、様々な芸術活動を宣伝及び紹介し、その活動を積極的に応援します！

同時に、協会では会員を随時募集しております。協会の活動に賛同、協力していただける方を会員、賛助会員とし、会員の芸術活動の紹介や案内などを定期的に会員の皆さんへお届けしております。是非、ご利用ください！

同封の振込用紙に必要事項をご記入の上、会費のお支払いにつき、皆さまのご協力をお願い致します。

連絡先はコチラ↓
〒466-0869　名古屋市昭和区南分町2-6　「アルス」気付
事務局：遠山090-7048-5144